

【提案】

従来の本単元の学習では、「消火活動」と「防火活動」が混在していたことで、児童の自然な思考の流れに合っていないように感じた。そこで、「消火活動」と「防火活動」を整理して学習することで、児童の思考の流れを整理し、「自分にできることの選択・判断」へとつながるように目指した。



【消防署見学の様子】

1 実践のポイント

(1) 「消火活動」と「防火活動」を区別し、児童の思考の流れを大切にする単元構成

単元構成を工夫し、消防署による「消火活動」と、消防署や地域などが行っている「防火活動」を区別して扱うこととした。火災について児童が生活経験からわかることは、「火事が起きると、消防車がやってきて、消防士さんが火を消してくれる。」ということが挙げられ、なかなか「防火活動」に関する問題意識は高まらない。

そこで、本実践では、まず消防署の見学から、「消火活動」について学習していく。そして、「火事が起きないようにする活動もあるのではないか。どのようなことが行われているのか」といった問題意識を高めさせて、「防火活動」について追究させていく。

以上のように、学習内容を整理し、単元構成を工夫することで、児童の思考の流れを大切にし、問題意識を「防火活動」へと高めた上で、自分にできることを「選択・判断」させていく。

(2) 「生かす」過程において、社会に見られる課題を把握させ、その解決に向けて「選択・判断」させる場面の意図的な設定

本実践では、新学習指導要領に新たに加わった「選択・判断」について、学習過程の「生かす」過程に位置付けていく。

「選択・判断」とは、「社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、学習したことを基に、自分たちに協力できることなどを選択し、自分の意見として決めるなどして判断すること」であるととらえられる。

そこで、「調べる」過程において、火災から私たちを守る活動として「消火活動」と「防火活動」について追究し、その上で、「生かす」過程において、自分にできる「防火活動」について考え、選択し、実践していく活動を位置づけていく。

2 実践の位置付け

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容(3) 地域の安全を守る働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア)消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係諸機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。

イ(イ)見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

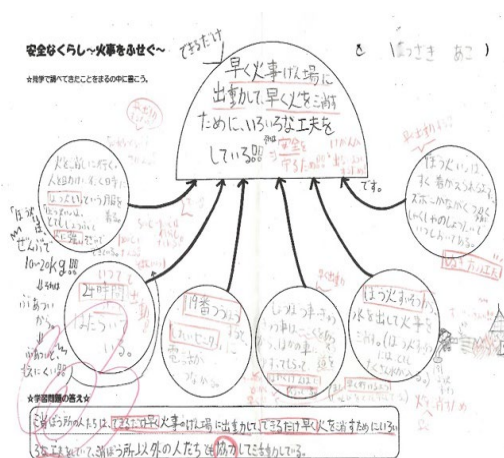
イ(ア)施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係諸機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。

内容の取扱いでは、「イ(ア)については、社会生活を営む上で大切な方法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」とある。そこで、本実践では、「法やきまり」について、消火器の設置や火災報知器の設置義務について消防法などの法律での規定を扱った。自分たちにできる防火活動については、「選択・判断」する活動を位置付けた。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

・児童をよりよく見取るための多様な評価方法の実施

本実践では、消防署の見学のまとめで思考ツール「くらげチャート」を活用し、児童が自分の思考を整理し、自分なりの学習問題の結論を導き出せるようにした。(図1)これにより、児童が学習問題についてどのような結論を思考し、表現しているのかを見取った。「選択・判断」の場面では、「自分にできる防災」について考え、表現するためのワークシートを作成した。ワークシートには、「自分にできる防災」とそう考えた理由、また、この単元のどの既習事項を基にして考えたのか、根拠を明確にして書かせていった。これにより、児童がこの学習でどんな知識を獲得し、その知識を使いながら自分なりの考えを出したのかを評価した。



(図1 クラゲチャート)

・信頼性、妥当性を高める学年での共通指導と評価の実施

本単元では、学年で揃って消防署見学に行くことから、単元計画から学年で話し合い、児童にどのような見学の視点をもたせたらよいかを考えた。そして、学年の教員が揃って消防署の方との事前打ち合わせを行い、学習の目標、内容について消防署の方にも理解していただき、消防署と教員が同じ視点を持ち、見学の説明や学習指導を行っていきけるようにした。これにより、どのクラスの児童に対しても、一貫して学習指導をすることができた。

3 実践の内容

(1) 単元の目標と評価規準

消防署は地域の人々と協力して火災の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを見学、調査したり、資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るために関係の諸機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、消防署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの予防に努めていることを理解している。</p>	<p>①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。</p> <p>②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考え、表現している。</p>	<p>①火災から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。</p>

(2) 指導計画と評価計画（10時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

○内の数字は時間を表す。

知：知識・技能 思：思考・判断・表現

< >内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	<p>① 消火活動の様子やさいたま市内の火事の件数等の資料から火災の様子について調べ、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火活動の様子 ・火災の恐ろしさ ・さいたま市内の火災の現状（1年間に起きた件数など） <p>学習問題</p>	<p>思① 地域の安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して、問いを見いだしている。 〈発言・ワークシート〉</p> <p>態① 火災から地域の安全を守る働きについて、学習問題をつくり、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 〈活動の様子・ワークシート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料（消火活動の様子） ・グラフ（さいたま市内の火災件数） ・さいたま市の火災の出火原因ランキング
	<p>火事からわたしたちを守るために、だれが、どのようなことをしているのだろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の結論の予想 ・学習計画と消防署の見学計画 		

<p>調 べ る</p>	<p>② ③ 消防署を見学・調査し、ワークシートに整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防署の様子 ・ 消防署で働く人の一日の仕事 ・ 救助訓練 ・ 消防車や器具の点検 ・ トレーニング <p>④ 消防署や、関係諸機関の連携体制について調べ、素早く消火するための協力について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防指令連絡の仕組みや協力 ・ 防災無線 ・ 素早く消火するための協力体制 <p>⑤ 消防署の火事を防ぐ活動について調べ、ワークシートに表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火栓の点検 ・ 火災予防の検査 ・ 学校の避難訓練に参加 ・ 地域の防災訓練に参加 ・ 救急法の講習会 <p>実践のポイント(1)</p>	<p>知① 緊急時の備えや対応などについて、消防署を見学・調査し、必要な情報を集め、読み取り、消防署は緊急時に対処する体制をとっていることを理解している。 〈ワークシート〉</p> <p>知① 緊急時への対応などについて、通信指令室の働きを基に必要な情報を集め、読み取り、関係機関は緊急時に対処する体制をとっていることを理解している。 〈発言・ワークシート〉</p> <p>知② 消防施設・消防設備などの配置などについて、地域の消防施設の分布や働きを基に必要な情報を集め、読み取り、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。 〈発言・ワークシート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真(消火栓等)
<p>ま と め る</p>	<p>⑥ ⑦ さいたま市や学校、地域の施設・設備や活動、各家庭での取組についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防火ポスター ・ 防災無線 ・ 校内の消火器、消火栓 ・ 防火水槽 ・ 地域の消火栓 ・ 消防団 ・ 地域の人たちとの防災訓練 ・ 火災予防の呼びかけや見回り ・ 家庭の消火器、避難持ち出し <p>⑧ これまでに調べたことを基にして、学習問題の結論を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防署と関係諸機関の消火活動と防火活動 	<p>思① 地域の消火・防火についての取組を調べ、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。 〈発言・ワークシート〉</p> <p>知② 消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、消火活動や、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていること、関係機関が地域の人々と協力して防火活動など火災の防止に努めていることを理解している。 〈ワークシート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真(校内の消火器等) ・ 写真(地域の消火器等) ・ 写真(消防団や案内板等) ・ これまで使った写真

生
か
す

学習問題の結論

火事が起きた時、消防署の人たちは、指令センターから連絡を受けると素早く出動し、消火活動をしています。警察署や市の水道局、電力会社、ガス会社などにも連絡がいき、消火や救助をしやすくしています。また、地域の防災訓練に参加したり、消火栓などの点検をしたりして、火事を防ぐ活動もしています。

また、地域や学校、私たちが火事を防ぐために、協力してさまざまな取組をしています。

- ⑨ ⑩地域の一員として、自分たちはどのように防火に取り組むかを考え、話し合う。

実践のポイント(2)

- ・自分たちにできる取組

思② 学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、表現している。〈ワークシート〉

態② 学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。〈ワークシート〉

4 実践結果と考察

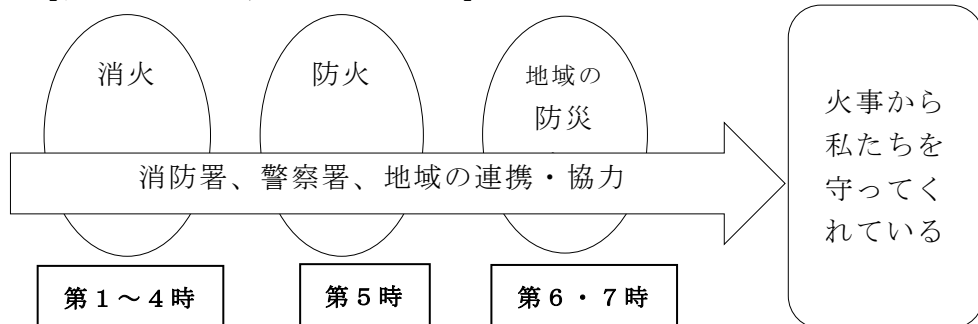
(1) 「消火活動」と「防火活動」を区別し、児童の思考の流れを大切にす単元構成

第1時に、恐ろしい火事の写真を見たり、さいたま市の平成30年度の火災発生件数や、火災の原因の資料を見たりして、私たちの身の回りで発生する火災について関心を高めた。また、消防車のサイレンの音声を流すことで消防車が出動している場面を想像し、「火事が起きると、消防車がやって来て火を消す。」という児童の意見から、学習問題を立てることができた。そして、消防署の見学を経て、第4時まで消防署が行っている「消火活動」について学習した。

第5時には、前時までの学習を振り返りつつ、さいたま市の火災発生件数の推移の資料を見て、「消防署の人たちは火事を消すためにがんばって活動しているのに、火災発生件数が減らないこともあること。」に着目し、「火災発生件数を減らすために、火事を防ぐことも必要だ。」という考えを導き出すことができた。そこで、学習問題を立て、「防火活動」について学習を進めた。

学習過程を「消火活動」と「防火活動」に分けたことで、児童の思考を図2のように整理し、考えやすくなった。

【図2 消火と防火のつながり】



(2) 「生かす」過程において、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて自分にできることを選択・判断させる場面の設定

第8時の最後の場面

第8時は、学習問題の結論を考えた。そこで、学習したことをもとに、地域の一員として自分にできることについて考えるように教師から投げかけた。



消防署も、地域も、学校も、みんなで協力してわたしたちを火事から守ってくれています。では、わたしたちにできることはないのでしょうか。



わたしたちにもできることはあるはずです。
どんなことができるか、考えてみたいです。

第9時の場面

たくさん出た意見の中から、自分にできること、またやってみたいことなどを選んで、ワークシートに書かせた。

【児童のワークシート】

考えよう！防火～わたしたちにできること～

3-3 (秋本)

学習したことを生かして、自分にできる防火について考えてみましょう。

ぼく・わたしは
ガスコンロやストーブを使い
終わったら、ちゃんと消したか
を点検します！

【理由】
出火原因でガスコンロが3位であじないし、点検なら、
かんたんにてきそうて毎日できそうだからです。

【どんな学習を生かしたの？】
出火原因で3位と教えてもらったからです。

※方法が

資料

第1時で使った「さいたま市火災の出火原因ランキング」

自分にできることを考えるだけでなく、やろうと思った理由や、どんな学習をいかしたのかを書かせることで、児童が根拠を明確にした考えを書くことができるようにした。



私は、資料にのっていた「出火原因」の3位をみて、身近な「ガスコンロ」にびっくりしました。自分でも点検ならできそうです。

自分にできることを「選択・判断」することで、防災を「自分ごと」として捉え、考えることができた。

5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

- ・「消火活動」と「防火活動」に学習過程を分けたことにより、目標と内容が明確化し、児童の追究を深めることができた。
- ・自分たちにできることを「選択・判断」することで、主体的に学習を進めることができた。

〈課題〉

- ・自分たちにできることを「選択・判断」することで、主体性は高まったが、児童が考えた解決策の質を高めることができなかった。有効性や実現性について検討する学習活動を設けることが必要である。